



愛研技術通信

掲示板: 法令・告示・通知

排水基準を定める省令の一部を改正する省令(閉鎖性海域に係る窒素・磷の暫定排水基準の見直し)の公布について

このことについては、愛研技術通信第25号(2008年8月20日発行)でお知らせしたとおり、「排水基準を定める省令の一部を改正する省令」が9月30日に公布され、10月1日から施行された。

今回の省令改正は、水質汚濁防止法における閉鎖性海域の窒素・リンに係る現行の暫定排水基準の適用期限が平成20年9月30日をもって満了することから、以降の暫定排水基準について定めたものである。

改正内容を再掲すると次のとおりである。

(1) 窒素含有量(単位: mg/L)

業種	許容限度 * () 内は日間平均値		備考
	~平成20年9月30日	平成20年10月1日~	
天然ガス鉱業	160(150)	160(150)	
畜産農業(水質汚濁防止法施行令(昭和46年政令第188号)別表第1第1号の2イに掲げる施設を有するものに限る。)	190(150)	190(150)	
畜産農業(上記以外)	190(150)	-	一般排水基準に移行
酸化銀製造業	240(210)	-	一般排水基準に移行
酸化コバルト製造業	900(750)	550(300)	
黄鉛顔料製造業	1300(950)	-	一般排水基準に移行
バナジウム化合物製造業及びモリブデン化合物製造業(バナジウム化合物又はモリブデン化合物の塩析工程を有するものに限る。)	6000(5000)	5000(3850)	
(参考)一般排水基準	120(60)		

(2) 磷含有量(単位: mg/L)

業種	許容限度 * () 内は日間平均値		備考
	~平成20年9月30日	平成20年10月1日~	
畜産農業(水質汚濁防止法施行令(昭和46年政令第188号)別表第1第1号の2イに掲げる施設を有するものに限る。)	30(24)	30(24)	
畜産農業(上記以外)	30(24)	-	一般排水基準に移行
磷化合物製造業(縮合燐酸塩製造工程を有するものに限る。)	40(10)	40(10)	
(参考)一般排水基準	16(8)		

伊吹山の自然再生に向け琵琶湖国定公園の計画変更へ 外来生物対策など強化

国定公園は、自然公園法に基づき、国立公園に準じる、優れた自然の風景地として都道府県の申出により環境大臣が指定するもので、現在55カ所ある。わが国で最初に指定された国定公園のひとつである琵琶湖国定公園は、日本最大の湖である琵琶湖を中心として、その周囲の山々や瀬田川(宇治川)の一带からなる。同公園では近年、公園利用者による自然破壊や、外来生物による植生の劣化などが見受けられ、問題になっている。このため環境省は、同公園に関する公園計画を変更することにした。

環境省が公園計画の変更を検討している伊吹山は、石灰岩からなる滋賀県の最高峰で、夏を中心にたくさんの利用者が訪れる。同地には約 1300 種の植物が生育し、特別保護地区に指定されている山頂部のお花畑ではルリトラノオやコイブキアザミなど 9 種類の固有種が見られ、国の天然記念物にも指定されている。一方で、それらの場所で、1)利用者による踏みつけや、2)植生が移り変わる「植生遷移」の進行、3)外来植物の侵入による植生の劣化や自然景観への影響が生じて、大きな問題になっている。

こうした状況を踏まえて同省は、公園計画を変更して滋賀県の伊吹山に自然再生を行うための保護施設である「自然再生施設」を追加する方針。また、自然再生事業については、伊吹山に関わる保全活動団体や学識経験者、地域住民、企業、行政機関などで構成する「伊吹山自然再生協議会」を設置し、その同協議会が作る「伊吹山再生全体構想」に基づいて実施するとしている。さらに、自然再生事業の具体的な内容として、次のものを検討している。

- 1)利用者の踏みつけなどによる被害対策として、立入禁止看板や進入防止柵などを設置
- 2)植生遷移対策として、アカソやススキなど適正な規模以上に拡大した植物の刈り取りを実施
- 3)外来植物対策として、セイヨウタンポポやヒメジョオンなどの除草を実施

同省では、これらの対策を実施することにより、劣化しつつある伊吹山の生態系の保全、再生が図れると期待している。(環境新聞 2008 年 09 月 18 日)

水質環境基準項目の見直しで検討開始

中央環境審議会の水環境部会は 9 月 30 日、環境基準健康項目専門委員会の初会合で水質環境基準健康項目の見直し等の検討を開始した。今回の検討項目は、現在要監視項目である(1)塩化ビニルモノマー(2)エピクロロヒドリン(3)1,4 - ジオキサン(4)全マンガン(5)ウラン(6)アンチモン(7)その他(農薬関連項目)で、このうち、河川における指針値超えの検出例が比較的多く、水道サイドからも対応の要望が出されている 1,4 - ジオキサンを環境基準項目に格上げするかどうかが焦点の 1 つとなりそうだ。(環境新聞、2008 年 10 月 2 日)

「盆栽と私」

角 信彦

私は知多半島の内海で生まれ育った。磯臭い海よりも緑香る野山によく遊ぶ子供だった。木によじ登り蔓を引きちぎって採ったアケビを大切に袋にしまい秘密の場所に埋めたり、害虫から守るため、おじさんが精出して包んだピワの実を、せっせと袋から取り出し食らい追いかけられたりもした。昨今、会ったばかりの人の名や、食したものがなかなか思い出せないが、その頃のことは不思議と鮮明に覚えている。

20 年程前になるが、サンコーデンキの近くに宮崎さんも常連客であった一つしかないのに『第 3 プリンズ』という名の床屋があった。川岸さんという几帳面にパーマをかけた猪みたいなご主人がハサミを握っていた。彼は自然薯掘りの名人で「ほれ！今年は猪野郎に勝ったぞ - ！」と見事な、こーんな(大きな)芋を丁寧に包んで持ってきてくれた。

ある日、『第 3 プリンズ』のカウンターに楓の寄せ植えが飾ってあった。子供の頃駆け回った野山を懐かしく思い出す盆栽だった。「平和公園にようさん生えとるで採ってりゃー」とすすめられ、早速、軍手、長靴。スコップにバケツといった出で立ちで宮崎さんと共に出かけた。春浅い雨の日 20 代の終わり。盆栽との出会いと始まりである。

趣味の目覚めはいつも良き人との出会いにつながってゆく。皆さんも日頃会社で飲まれているお茶作りの名人、山太園の園主・太田重幸さんとの出会いである。盆栽は世襲制が一般的で、代々親から子へと受け継がれてゆくの慣わしとなっている。



製茶業から一代で転業し東海地方で指折りの盆栽園を築き上げた。太田さんはアウトローのバイヤーである。それゆえ途中、技術の無さもさることながら名前の無さにも危機を感じた彼は、名門竹下の門をたたいたのである。今では盆栽協会・公認講師としても超ウルトラ級の腕前を見せる。「台湾に荷物(盆栽)を売りに行ってな。言葉もわからん上に墓参りにつき合わされて、カラスに襲われてな。かなわん目におおたけど、まあ、ようけこうてくれたから良かったわ。」人なつこい笑顔に、まったく優しい三重弁。何ものにも媚びないドングリマナコ。一時もじっとしていない気配り。フウテンの寅のようだが手にした獲物は決して逃がさないのが太田さんである。腕の良さと正直なバイヤー魂。私が生涯の師匠と慕う味わい深き人である。

その彼が発足した鈴山会。月一度の講習会、春の旅行に12月は展示会と忙しい。平均年齢は60歳を超えるこの会で私などまだまだ若造である。今年75歳になる羽田さんは、毎年種を蒔いては「芽がでる頃には自分の命がないわ！」と大笑いをしている。人生の大先輩である。



2007年鈴山展出品樹(山紅葉)

地球上には23万3000種の植物があるという。その中で盆栽として扱われるものは、ほんの数百種であろう。中でも盆栽というと天皇陛下や総理大臣がたつ脇に飾りつけられた立派な松などを思い浮かべる方も多いことだろう。しかし、最近はやり自然に近い造形が脚光を浴びている。環境問題で里山が唱われているように、人本来の自然美は盆栽の世界でも同じようだ。【「人工美」に対する「自然美」とは、枝の形や根張りといった細部の形体を忘れることで初めて体験できるものだが、盆栽界は意味を知らずにこの言葉を安易に使いすぎる。

青空の美しさ、海原の雄大さをいうとき、人はそこに何らかの形体や意味を見いだしたり、まして算盤をはじいたりするだろうか。(九霞園 盆栽哲学より)】

盆栽は人が手を加え「自然美」を創り出す。そこには綿密な計画と長い月日を要する。針金かけをしている際、折れてしまう枝。剪定しすぎて咲かない花。接ぎ木、葉刈り、芽きりと目標目指し実にいるいろいろな作業をする。そして、その痕跡を残さない様にするのだからたまらなく面白い。

【余計な手を加えずとも樹形は樹自らが決するので、最低限の剪定で無駄を省いたら、後は時に任せる。ただ、どれほど人間の痕跡を消そうとしても、作り手の影は避けられず樹に寄り添

う。(九霞園 盆栽哲学より)】

私は樹の姿に魅せられる。幹肌が美しい、根張りが頼もしい、枝振りが可憐などと野山の木々は勿論、街路樹にも心惹かれるのである。

私は盆栽に関わる人々も好きである。寡黙で正直な樹が好きでたまらない人達。自慢の樹を語るとき皆、子供のように無邪気だ。そんな愛好家には政治家や著名人もいる。吉田茂所蔵のケヤキは有名である。日本盆栽協会の会長は宮沢喜一、河野洋平と続き、ゴルフのジャンボ尾崎は盆栽園を開園した。反町隆史は松嶋菜々子の誕生日に、京都・大観展で数百万もの買い物をしていったそうだ。私にはそんな真似はできそうもないが、いくつあっても満足いかず、ついつい心動く樹に祈りを捧げたいくなるのは同じ盆栽愛好家として共感できるのである。

【立ったまま上から見下ろす人、腰を落として見つめる人。棚を低くしたら、その人の植物に向き合う姿勢が見えてくる。(九霞園 盆栽哲学より)】

『第3プリンス』の川岸さんは店を閉め、今では洒落た2世帯住宅がそこに建っている。そのガレージ片隅の小さな棚場に小さな盆栽たちがきれいに並べられている。空高い秋の日、すっかり髪が白くなった川岸さんがニコニコと楽しそうにハサミを握っていた。



九霞園：昭和4年開設。宮内庁大道（おおみち）庭園盆栽仕立場の手伝いをはじめ、現在は埼玉県大宮町盆栽村に園を構える名門中の名門。太平洋戦争中も盆栽園の看板を掲げて営業を続けたのは九霞園だけと言われる。

第17期旅行会 神戸有馬大阪旅行記

三輪 淳一

旅行の4日前、東洋ツーリストより台風13号が近畿、東海を直撃するという予報なので今なら、中止できますがどうしますかとの連絡が入りました。迷いながら1日を経過しましたところ、熱帯性低気圧になる可能性がでてきたということで、旅

行委員と相談し決行する事に致しました。前日まで雨がのこっていましたが当日は快晴で、全員の心がけがよいからだ、ということになりました。営業所7:30、本社8:30予定通り出発できました。名神高速道路を右に伊吹山眺めながら進み、京都を

通過し、大阪万博の跡地を眺めながら神戸に到着し、ステーキ膳で有名な？、西村屋たじま路に予定よりも早く到着。各々石盤の上で但馬牛のステーキを各自好きな焼き加減でおいしく頂きました。肉好きの私はおもにレアで頂き満腹でした。午後は北野異人館の散策で、ラインの館とうろこの館を見ました、アンティークのすばらしい家具がいくつも置いてありましたし、ジノリ、ウエッジウッドなどの陶器も見ものでした。隣接されている小さな美術館に入りました。なかはこじんまりしておりましたが、マネとモネの小品があり、楽しく鑑賞しました。熱帯性低気圧の影響でしょうか、30 を越え真夏並の気温になり、おおいに汗をかきました。古い小さな喫茶店でのアイスコーヒーが意外に美味しく感じられました。

バスの出発までには少し時間があつたので生田神社にお参りました。また近くにNHKの神戸放送局があつて玄関近くのホールでラテン系の小編成のバンドが生演奏をしていました。もう少し時間があつたらゆっくり聞きたかつた。16:00 予定通り出発し新幹線新神戸駅のすぐ横から六甲山をトンネルで通り抜け驚くことに約40分で有馬温泉に到着しました。

有馬グランドホテルは有馬温泉で最も大きいホテルで930人宿泊できるそうです。六甲山につながる山の山頂にたっており、見晴らし抜群でまわりの山々が一望でき各々の部屋からは当然ですが、最上階の展望風呂及び野天風呂からの眺めが一番でした。

昔、宿泊した時は有馬温泉特有の赤錆色の温泉ばかりでしたが、有馬グランドホテルは薬湯として、規模が小さくなっていました。昔はもっと匂いが強く、色ももっと濃かつたように感じましたが、この方が一般に受けると思いました。バスガイドが3回はいるのが標準といっていました。私は到着した日に3回、翌朝早朝に1回で計4回ということになりました。

恒例の宴会ですが摂津という180畳の大広間で31人が壁側にコの字の形に座ると、真ん中で運動会ができそうなほど、カラオケがはじまって舞台までかなりの距離がありました。楽しく宴会が終わつたあと、ふもとの町まで10分以上かけてラーメンを食べに行った人たちが何人かいましたが、帰りが急な坂でへとへとになつたようです。ロビーではライブをやっていますが、玄関前の広場で天体観測会があるということで行ってみました。

堀毛さんというホテルのスタッフが先生で天体の話をしてくれました。天体望遠鏡で木星を見せてくれました、ピンク色の横縞と3個の衛星が確認できました。面白かつたのは1人ずつ位置を修正しながらの観察でした、自動追跡装置は高価でまだ用意できないとのことでした。私は木星を見たのが始めてで感激しました。寝る前に星を見ながら野天風呂に入り、その夜は熟睡しました。

翌朝は山には雲が懸かり雨が降っていました。やはり台風の影響が残つていたのかと心配しましたが、出発の時刻9:00には雨はやんでいました。大阪市内の高速道路はいつも渋滞するということで覚悟していましたが、こんなにすいすいと走ることができるのは初めてだとバスの運転手はっていました。予定の

時間午前10時には海遊館に到着しました。待ち時間ができるほどの人気があるそうですが、私たちは時間が早かつたせいもあり、すぐに入場できました。エスカレーターで10階のピルの最上階まで一気にのぼり、巨大な水槽の上から水槽のまわりの傾斜の緩いスロープをゆっくりりくたりにながら観察する形式になっていました。

私は音声ガイドを300円でかりて、説明を聞きながら観察しました。ジンベイザメはさすがに大きく、水槽の清掃のためにアクアラングをつけた作業員がはいっていました。米粒ほどのおおきさに見えました。巨大エイのマンタもいました。沖縄石垣島の川平海岸でマンタが群をなして通る海溝があるという事でしたが、見ることはできませんでした。そのマンタがゆうゆうと泳いでいました。いわしも、大きな群を作って泳ぎ回っていました。ジンベイザメやマンタが餌として食べてしまわないかと心配しましたが、みんなおなかにはふくれているようでその心配は無用でした。このような巨大な生き物がゆったり泳いでいるのをみていると、異次元の世界に入り込んだ感覚になり、ゆっくり座つて見ていると時間を忘れてしまいそうになりました。人気の秘密はそんなところにあると思いました。昼食は道頓堀にあるお好み焼き専門の千房という店で、種類の違う大きなお好み焼き2個と焼きそばで大変美味かつたのですが、私にとっては、ソースが甘すぎました。大阪は不景気だという話を聞きますが、道頓堀の人出の多さは名古屋の大須以上だと思えました。

みんな、おもいおもいのおみやげを買い込み帰路につきましたが、最終集合の30分前から雨になり、大雨の中の名神高速となりましたが、ほぼ予定通り本社、半田営業所と無事につきました。今回の旅行は準備の段階で少しもたもたしましたが、みんなでわいわいがやがやとても楽しい旅行でした。いずれの日の昼食も特徴があつておいしく頂きましたし、イベントも結構おもしろかつたです。ただ気になる事は欠席者が多かつた事です。公務はやむを得ないと思いますが、もっと出席できるようにみなで工夫しましょう。

いずれにしても、旅行委員の三輪(兼)さん、井出さん、会計の小野寺さんご苦労様でした。次の委員は林さん、加藤(満)さんです、よろしくお願ひします。



